

韓日歴史教育への一私論

中村 修也*

My Private Opinion about Education method the History of Korea and Japan

Shuya NAKAMURA

要旨 日本と韓国の歴史教育に関しては、さまざまな政治的な要因が関わってきている。とくに日韓関係については、社会的なイメージも大きく立ちだかっている。また、教育現場においても文部科学省という教育行政の関与も影響力を持っている。

こうした前提の下で、我々教育者が考えなければならないのは、今後の日韓関係史教育が何を目指して行うかというスタンスの問題である。自然な流れに任せるというのも一つの立場であるし、国の独立性を強調するというのも一つの見解である。しかし、もし両国が近い将来に親密な関係になることを望むのならば、今とは異なる方法が存在する。

ひとつには、韓国だけではなく、広くアジア諸国から第二次世界大戦における戦争責任の追及がなげに根ざしているかということを引きちんと考えられる教育を行うことである。たんに金銭的・労力的賠償をすれば、歴史的戦争責任が解消されるというのは、あまりに単純な、そして一方的な考えであることを理解しなければならない。

そして韓国側も、両国の関係の改善には教科書問題の追及が役に立たないこと。それはストレートに外交問題、政治レベルの問題であり、教育の問題ではないことを理解する必要があることを論じた。

キーワード：歴史教育 歴史認識 韓日関係 歴史教科書 自虐史観

1 歴史認識の実情

「歴史教育」とは何かということを真正面から考えると、その答えはなかなか難しい。

歴史事実を伝えること、というのは間違いのない一面であるが、それだけではけっしてない。

歴史とは何か。

歴史はいかにして紡ぎあげられたものか。

歴史からいったい何を学ぶのか。

こうした問題も、当然のことながら含まれてくる。

そうした場合、歴史事実とはそもそも何かという根本的な問題も発生する。まして、他国との関

係史においては、互いの異なる立場があり、かんたんに「これが歴史事実だ」というものを提示することは困難である。

日本の教育の中には、面白いことに「日本史」の授業以外に「世界史」という授業が存在する。そして、この「日本史」と「世界史」は別々の授業として存立し、混じり合うことはなかった。そのため、近年になって日本社会がグローバル化した結果、日本史よりも世界史を重視する傾向が強まった。それは、まさに両教科が互いに交差することのなかった現れであろう。さらに「日本史」の教科においても、近代を主体とする「日本史A」と前近代を主体とする「日本史B」という二種類の教科書が使われるようになった。

では、その後の歴史教育で、日本人は日本史や世界史にそれぞれどのような結果をもたらしたの

*なかむら しゅうや 文教大学教育学部学校教育課程

であろうか。

今回は日韓の歴史教育がテーマとなっているので、大学1年生を主体に、大学生に次のようなアンケートを実施した。

まず13項目の朝鮮史上、著名な歴史用語をどれだけ学生が認識しているかを調べた。

その結果、認知度は次の通りであった。

高句麗	91.6%
新羅	91.6%
百濟	89.5%
世宗大王	6.2%
李成桂	61.4%
李舜臣	60.4%
閔姫暗殺	48.9%
安重根	67.7%
創氏改名	55.2%
李承晩	19.7%
朴正熙	19.7%
日韓条約	65.6%
従軍慰安婦	56.2%

高句麗・新羅・百濟の認知度が高いのは、日本史の古代という早い時期に登場するためであろう。安重根の認知度が高いのも、試験問題に出やすいせいでもあろう。李成桂・李舜臣の認知度も同じ原因と考えられる。そういう意味では、世宗大王がハングルを作った偉大な王で会っても日本史の教科書には出てこないために極端に認知度が低いのは当然である。

驚いたのは、従軍慰安婦は100%の認知度かと思っていたのが、実は6割を切っていたことである。これは教科書にも出てくるし、新聞やテレビのニュースでしばしば話題になるのだが、意外に知られていない。

ようするに、高校生は新聞も読まなければ、ニュースもみないということであろう。そして、学校の教師もそうしたことへの関心を高校生に指導しないということである。

だが、問題はこれだけではない。

10年ほど前に、やはり大学1年生に日本史の人物を100人とりあげたテストをしてみたことがある。その時の問題は別紙のとおりであるが、このテストで50人中、10点未満の学生はたしか5、6人いたという記憶がある。最高点では80点を取った学生も1人いたが、ほとんどが30点前後であった。

つまり、韓国の歴史だけではなく、日本の歴史についても、日本の高校生は認知度が低いということである。

もちろん歴史教育の成果は、記憶だけの問題ではない。

しかし、最低限の常識レベルでの記憶力は問われる。

たとえば、大学の推薦入試の面接試験で、次のようなことがあった。

日本史が好き、特に戦国時代が好きだという学生に、戦国時代の次の時代はなんですか？と尋ねたところ、「飛鳥時代」という返事がかえってきた。

また、「大化改新」を知らない高校生もいた。

ある意味、そうした高校生に比べると、先ほどの韓国の歴史用語で60%以上の認知度をもってゐることは優れているともいえよう。

韓国では、日本人は韓国のことを知らないということをよく聞くが、実は日本の高校生は韓国のこと以上に日本のことを知らないというべき状況もある。

しかし、考えてみれば、ほんの40年前には、アメリカ人は日本のことを、

「サムライや忍者がいて、日本人は恥をかかされると切腹する」

「日本人女性は着物を着ており、芸者ガールである」

などといった情報を常識とする程度のものであった。

他国のことを知らないのは、ごく普通のことなのだ。ところが、韓国は日本に対して近親憎悪の感情が強い。

なぜか。

これもまたよく言われることだが、

「韓国にとって中国は親で日本は弟」

「韓国と日本は兄と弟の関係」

という表現である。つまり、弟は兄の事を知っているのは当然である。なのに弟である日本人は兄である韓国のことを知らない。これはけしからん。ということなのであろうか。

しかし、国と国が兄と弟の関係であるはずがないし、親子であるはずもない。

国と国は対等であり、独立しているものである。

むしろ、親子、兄弟という表現には親近性があり、それゆえ近親憎悪ではないかという発想が浮かんでくるのである。だが、これは解消されなければならない問題である。

たとえば、李基白氏の『韓国古代史論』（泊勝美訳、学生社、1976年）には、次のような表現がある。

さきに指摘した古代韓日関係の特徴は、何よりも、文化的な先進・後進の関係に起因するものである。ここでいう文化とは、必ずしも宗教・学問・芸術の類だけではなく、生産技術や政治制度までふくむ広い意味のものである。

韓国の立場からみると、日本は文化的には後進国であったし、したがって、日本から受け入れなければならない文化というものはなかった。日本の学者のなかには、いまでもしつこく、稲作が日本を経て韓国に伝わったと主張する人がいる。稲の原産地が南方であって、日本は韓国より南方にあり、海上伝来径路を想定しようということがこうした主張を可能にさせた。（P68～69）

特定の人物の極端な例をあげつらっても仕方がないので、特別なコメントは差し控えるが、これ以上の表現は他にも存在する。

しかし、これとまったく逆の立場の日本人学者の記述も当然のことながら存在する。

韓日の歴史教育問題を何処に据えるかが、重要

な問題であろう。

これまでの両国の問題点を指摘し合うことを基本に置か、それとも、今後の両国の関係をよくするためにはどういった教育がありえるかを検討するか。そこには結果として大きな違いが生まれてくるはずである。

2 近代以降の韓日関係における日本の問題

歴史教育では、歴史事実を客観的に生徒に伝えることが基本である。

その際に、どの程度の事実を伝えるかも問題となろう。

韓国で「日帝」と称される日本帝国主義が、軍部を通して行った植民地政策は、現代的観点からすれば、非人道的で許されざる行為であることは間違いない。

その植民地政策において、朝鮮国の産業に寄与した面があっても、つまりプラス面があっても「人道的」にマイナス面があると、それは単純にプラスマイナスで計算できる結果とはならないのである。

たとえば、日本で相当部数が売れた『嫌韓流』（晋遊舎）という漫画の中で、第二次世界大戦後の日本の戦争責任については、1965年の日韓基本条約ですでに済んでいるという表現が繰り返し述べられている。

これは、ある意味、論理として成立する話である。すくなくともこの漫画を読んだ日本人は、日本の韓国に対する戦争責任はすでに終わっているという感想をもつであろう。

だが、考えなければならないことは、論理の問題ではない。感情の問題なのである。

私は、第二次世界大戦で、日本がアジア諸国に行った非道について大学生に語る時、いつも次のようなたとえ話をする。

「君が、友人にある日、ボコボコに殴られ、蹴ら

れ、傷つけられたとしよう。その翌日、友人が昨日は悪かった、許してくれ、と100万円を君に渡した。さて、君は、昨日のことをきれいさっぱり忘れられるかな？」

「100万円はもらった瞬間、得したという気持ちが動くことはたしかだ。しかし、使ってしまうと、再び、傷つけられたことに対する怨みの感情が起こってくるはずだ」

「戦争で相手を傷つけるということは、そういうことなのではないだろうか」

「いくら謝っても、一度つけられた痛みや怨みは、なかなか晴れない。おそらく何らかの形で一生残るであろう」

「時間だけが解決してくれるもので、それは他の方法では解決しないということなのだ。だから他国を傷つけてはいけない」

というものである。

歴史認識と言っても、南京大虐殺で何人もの中国人が日本兵に殺害されたとか、日本軍が朝鮮人を何人強制労働させたとか、従軍慰安婦を軍が組織的に連れて行ったとかの話しをしても、その時は、日本軍の非道さに憤っても、逆の話をされると、つまり、広島原爆で日本人が何人殺されたとか、南方戦線で、日本人兵士がアメリカ兵にどんな目にあっただとか、悲惨な話をされると、すぐに考えが変わってしまう程度の歴史認識が一般的である。

つまり、加害者と被害者の両方の意見は、意見としてそれぞれ存在する。しかし、そうした理解は、両方ともに、「だから相手が悪い」という自己責任回避の論理でしかないのである。

それではいつまで経っても平行線である。解決には近付かない、むしろ、そうした対立が存在することで、利益を得る人たちが出てくるだけである。

先ほどの喧嘩の話には続きがある。

「では、どうしたら、友人はあなたに許してもら

えるか」

と、学生に問いかけます。

「それは、たった一つの方法しかない」

「お金を払うのではなく、誠心誠意、友人が君に謝ることだ」

「友人が謝り続けても、君がなかなか許せないのは当然だ。しかし、それでも友人が謝り続けたら、それを許さない君はあまりに心が狭いということに、逆になるよ」

「だから、謝り続ける相手には、君も大きな気持でそれを受け入れることができるように、心を成長させる必要がある」

ようするに信頼や理解というものは、お金や強制ではえられないものだということである。まさに、「北風と太陽」というお話と同じである。

旅人の外套を、北風が吹き飛ばそうとすると、旅人はかえって外套を強く着込もうとし、太陽がぽかぽかと温めると、暑くなって外套を脱ぐという、この話と同じなのである。

ところが、現代史を知らない日本人の中には、とんでもない思いこみをする人も存在する。次の話は、実際にあった話である。

ある駅ビルのエレベーター内で、私が知り合いとソウルのお話をし始めた時のことである。そのソウルという言葉聞いた、まったく見知らぬ婦人が、

「ソウルなんか行くの？あそこはひどい国よ」

と言い出した。私と知人はびっくり！この人はいったいなにを言い出すのか。

しかし、私も大人の社会人、

「そんなことはありませんよ」

と静かに対応したところ、

「いいえ、私は何度も行って、よく知っているの。韓国人は日本人だとわかると、ぼったくるのよ」

「はあ、でも、旅行者に対しては、どこの国でも似たようなことはありますよ」

「いいえ、ソウルは特別。私はヨーロッパにも行くけど、そんな目にあつたことはないの」

「ホテルにもよりますし」

「私はソウルではロッセに決めているの。だから一級のホテルでもひどいの」

というのである。

これ以上は、なにを行っても無駄なので、沈黙した。

彼女がどの程度事実を伝えているかを検証することは、その場ではできない。またする気にもなれない。もし「私は経験したの」と言い張られると、それを他人が否定することはできないのである。

そして、その人は私たちのような、とつぜんエレベーターで一緒になっただけの人間にも、韓国の悪口を言う人物だという事実を勘案すると、当然、知り合いには吹聴していることが推測される。

その女性は見たところ60歳以上のように見受けられた。ところで70歳前後の日本人の韓国人に対する一般的感覚は、「怖い」である。

「冬ノソナタ」によってずいぶんと緩和されたとはいえ、まだ、韓国旅行をしたことがない人にとっては、根拠のない「怖い」という感覚は消えていない。それはある面、日本が朝鮮にした行為への不安感から来ている恐怖心ともいえる。後ろめたさの裏返しともいえるであろう。

さて、こういう日本人に次のようなファクターが加わったらどうなるであろうか。

- ①韓国の人は日本の歴史教科書に難癖をつける。
- ②韓国の人は戦後賠償金以外にもいろいろとお金を請求する。
- ③韓国と同じ民族の北朝鮮は日本人を拉致する。
- ④韓国人は日本人を嫌っている。←反日感情
- ⑤韓国に行ってきた友人が、韓国人はぼったくると言っていた。

「恐怖」＋「悪評」＝嫌悪

そして、

「嫌悪」→韓国への無理解→韓国による反日

→「一層の嫌悪」→反韓感情→過激な反日

という悪の連鎖を生み出すことになる。こうした単純な図式も、正確な歴史を学んでいないことによって引き起こされる現象である。

だが、これは韓国の歴史教育についても同様のことが言える。現状はどのようなものか調査していないが、少し前までは、反日的な歴史教育が行われていたことは事実であろう。歴史に即しても、そうなる可能性は高い。教科書問題で韓国から批判されている問題に関しては、細かな事実関係は別として、日本側に有利な材料は少ない。つまり、歴史が語る部分において、韓国の生徒・学生たちは、自国の先輩達になり替わり義憤を感じる可能性が高い。

このことは否定する必要のないことである。自然な感情として処理すべき問題である。

だが、教師の側から積極的に反日的感情を教えるとなると、これは問題である。一般的な歴史教育の範疇を超えていると言わざるを得ない。感情論的な教育をうけると、「歴史に対する客観的な見方」を学ぶことができなくなる。

このことによる歴史教育のマイナス面は相当大きなものとなる。

かんたんに言うと、歴史を学ぶことで未来の社会をよりよくするのではなく、過去の感情を再生産するだけのことに陥ってしまうのである。教育の出来事が、知らぬ間に政治の内容にスライドしてしまっているともいえよう。

韓日の関係史について、政治の立場で議論すれば、政治家の立場を崩せず、問題がいつまでたっても平行線をたどる。これは本来、教育や・研究の立場で議論していくべき問題である。教育や研究という立場ならば、なんでも言いあえ、少しずつ改善が進むはずである。

3 歴史教科書批判

最初のアンケートで、「韓国や中国の日本の歴史教科書に関する意見についてどう思いますか」という設問をもうけた。それに対する解答としては、

正当な要求 42.7%

不当な介入 28.1%

わからない 29.2%

という結果となった。約4割が正当な要求と感じて
いると同時に、約6割がそうは思っていないとい
う結果が出た。これも、実は論理や理性ではなく、
感覚的な解答とみるべきであろう。

教科書の書き換えや批判というものを、対外国
で考えると複雑になるが、国内的に考えるとわか
りやすくなる。

例をあげて言えば次のようなことである。

日本の教科書を統括しているところは、文部科
学省である。文部科学省は、教育的見地から教科
書検定を行っている。しかし、研究者の中には、
それを不当な干渉であると、教科書検定そのもの
に対する批判を行う人もいる。ところが、その意
見が、すんなりと受け入れられないのは、歴史事
実を明確にすることが甚だ困難であるという研究
状況が一方にあるからである。学説がいくつか存
在する歴史に関しては、どこかで平等に処理する
必要が生じてくる。現在のところ、それを我々は
文部科学省に委ねている状態である。

ここには、文部科学省が、教科書検定を教育的
見地で行っているということが認められていると
いう前提が存在する。しかし、この前提が崩れて、
検定の立場が政治的なものだとすると、そうした
検定は受け入れられなくなる。

そうしたことの顕著な例は、扶桑社の出版した
『新しい歴史教科書』の存在であろう。

他方、日本の文部科学省が、外国から、
「ここは、こういうふう書き直せ」
と、政治的に言われた場合、立場上、「はい」とは
いえないであろう。

しかし、研究者の間から、

「この叙述は、少しおかしい」

「このところは、こう書いた方がいい」

とアドバイスを受けた場合は、再検討が行われる
はずである。そして、いくどか両者で議論が戦わ
され、ある一定の妥協点に落ち着くであろう。こ

れも、研究者が政治ではなく教育の立場からアド
バイスしているから成り立つことである。

つまり、ここにいう研究者は日本人でなくても
いいわけである。韓国の研究者であろうが、中国
の研究者であろうが、研究の立場、教育の立場か
らの発言である以上は、成立するできごとである。

そうした意味では、日韓共同歴史研究、日中共
同歴史研究が行われる意義は大きい。歴史につい
ては、研究者同士、教育者同士の理解の上で、少
しずつ事実確認をして、時間をかけて変えていけ
ばいいことであろう。変えていくというよりは、
変わっていけばというほうが、正しいかもしれな
い。こうした研究の結果、外国との関係史が、新
しい定説に落ち着いていけば、政治家も自然に受
け入れられるし、受け入れざるを得ないというこ
とになる。

だが、ここに、少しでも政治が入ると、複雑な
事態となる。そして次に大事なことは、なんのた
めの関係史かということである。できれば未来に
友好的関係をむすぶための関係史研究・教育であ
りたい。先述したように、恨みの再生産のための
関係史研究では意義がない。生活の場において考
えれば、非常にわかりやすい。相手のあら探しを
し続けていても、両者の関係はけっして改善しな
い。ある二つの国の関係が険悪なものとなると、
そのことによって得をする国が出てきて、その悪
関係の連鎖が助長されることとなる。

逆に友好的な面を認めると、両者の関係は良
くなり、第三者がつけいる隙がなくなるのである。
人間関係も、国と国の関係も、同様のことがいえ
るであろう。

その点では、日本の教科書は、ある意味、優れ
ている。ストイックなまでに客観描写に徹し、外
国の悪口は書かれていない。とくに戦後日本を占
領したアメリカについてすら悪く書いていない。
ましてや、自国である日本の悪口も書いていない。

4 自虐史観という問題

自分の国の歴史を学ぶ時に、自分の国の悪口が書かれていたら、それを学ぶ子どもたちは、どうなってしまうか。これは、とても重要な問題である。

精神発達上も、大きな傷をすべての子どもに負わせてしまうことになる。

たとえば、イギリスの教科書には、19世紀にイギリスが中国商品をただ同然で得るために、アヘンを中国人に吸わせて、アヘン中毒患者だらけにした、とは書いていないであろう。また、インドを植民地にした時に、インド人に牛馬以下の扱いをしたとは書いていないであろう。

そうしたことは、事実であっても、いきなり子どもたちが知るべき歴史ではないと考える。自分の国には、こんな偉い人がいて、自分の地域にもこんな偉い人がいて、そうして、国が成長してきたんだ、という単純な夢のある歴史を学んだあとに、事実はそれだけではないということを知る、これが普通の順序であろう。

つまり、子どもに、いきなり大人の世界の現実をつきつけるのは、教育上、マイナスだということである。

具体的に考えると、次のようになる。

日本が戦争でアメリカに負けた。そのことを基準にして、アメリカの非道性を小学校の歴史教育で教え込むことは教育上マイナスだということである。アメリカに対して、頭から日本を敗戦に追い込んだ悪者と教えられなければ、子どもはアメリカの良い点も悪い点も客観的に学ぶことができる。しかし、先入観を持ってしまうと、よい点が見えにくくなる、ということである。それは日本と韓国の関係についてもいえることである。

ところで、教科書批判とは真逆に、日本では自虐史観に対する批判が存在する。扶桑社の『新しい歴史教科書』も、その自虐史観批判から生まれたものである。

自虐史観という言い方が正しいとも思われないが、とりあえず、そう呼ばれているものの実体は、

- 1 第二次世界大戦における戦争責任を痛切に実感し、周辺諸国に対して、それを表明することを是とする姿勢、あるいは歴史観。
- 2 戦争そのものの悲惨さを強く反省して、その反省のもとに立脚する歴史像を描き、アジア諸国に対して賠償の姿勢を示すこと。
- 3 自分の国を痛めつけたアメリカに対して、恨みを抱くことなく、積極的に長所を取り入れようとする姿勢。

という3点をあげることができるであろうか。

さて、この自虐史観なるものはいったいどこから来ているのであろうか。

敗戦国であるから、戦争賠償金を支払わされるのは当然である。実際に支払ってもある。

東京裁判という不当な裁判も甘んじて受けている。

戦争末期においては、沖縄玉砕戦と原爆投下という壊滅的な攻撃も受けている。

これらはしかたのないことである。

では、なにをもって自虐史観というのであろうか。

なんとなく、日本を倒したアメリカに対して卑屈であること、アジア諸国に対して弱腰であること、といった点を過大に感じすぎているからにすぎないような気がする。

第二次世界大戦が、誰が始めたものなのか、それは一言ではいえないが、アメリカにおいては「リメンバーパールハーバー」と、日本による真珠湾攻撃を一つのきっかけとしていることは確かである。これについてはABC包囲網のせいだとか、いろんな反論もあろう。だが、戦争における負債は、戦勝国によって差配が決められる。

日本はヨーロッパ戦線にはほとんど介入していない。それゆえ、ヨーロッパ諸国からそれほど憎まれていない。実際に戦ったアメリカからも多少は恨まれているが、それほどではない。なぜならアメリカが日本に勝利しているからである。

しかし、韓国・中国をはじめとするアジア諸国からは強烈に恨まれている。理由は単純である。彼らに対して非人道的行為があったからである。

自分を恨んでいる相手に対して、へりくだって怒りを収めてもらおうという態度を、どのように評価するかということが、自虐的か道徳的かという問題にかかわる。

儒教道徳で考えれば、戦争に負けても、すぐに経済復興して豊かになった日本が、戦後に解放され、独立した韓国などから非難されることを甘んじて受ける態度こそ、「大人」の態度である。

むしろ、日本が敗戦し、立場が弱くなった状況において、優位に立ち、イジメるとするのは「小人」の取る態度である。

今、問題にされている教科書問題についても同じことがいえる。

教科書は国内で使用されるものである。ことに歴史教科書は、基本的に自分の国の歴史を、自分の国民に学習させるために編纂されているものである。その内容について、他国がとやかく言う筋合いのものではない。

しかるに、中国・韓国・北朝鮮からは、しばしば干渉を受ける。そして、その干渉については、全面的ではないにしても、言い分を受け入れ、修正する、という姿勢を日本はとっている。これこそが自虐的である、という人もいるであろう。

しかし実は、これは自虐的ではなく、逆にかなり驕った姿勢であるという見方もできる。戦後の日本の経済復興が他のアジアに比して格段に進んだ。「日本は負けたおかげで豊かになった」という意見もあったほどである。

つまり豊かな日本だから、請求されるままに賠償金を払うことができる、という見方も存在するということである。もし、敗戦の影響で、日本が貧乏国となっていたなら、賠償金を請求されても、現実問題として支払能力がなかったかもしれない。

現在の日本の歴史観が自虐的かそうでないかは、教育や歴史研究の問題ではない。これも政治的な立場からの見方である。

日本の外交姿勢が弱腰であるという批判があり、その弱腰である原因が、自虐史観に立脚しているという見方が、「新しい教科書」を作る会の姿勢である。

しかし、日本の外交姿勢に対する評価そのものが、政治的立場で行われており、本来、日本の官僚にむかって行われるべき批判を、歴史観という抽象的なものに置き換えてしまっているわけである。これは、はなはだ意図的な行為といえよう。

政治や行政に対する批判の形を取りながら、教育という現場での思想統制の方向性を変えようというものであると判断できる。つまり、作る会の行為は、けっして教育行為ではなく、政治行為であると判断できるのである。

5 今後の歴史教育

現在の日本の小学生・中学生・高校生は、ほとんどが歴史に無垢な状態である。

それは文部科学省という政治の団体が、高校から日本史の必修をなくしてしまったからである。平成3年度の学習指導要領の改訂に伴い、平成6年度から日本史にかわって世界史が必修となった。すでに高校生が日本史を学ばなくなってから15年目となったわけである。

日本では小学校6年生で初めて日本史を学ぶ。そして中学2年生でもう一度。

それでおしまい。もちろん高校で日本史を選択する学生もいるが、少数である。

高校で日本史が必修から姿を消して15年ということは、当時、中2で日本史を習って以後、まったく日本史を学ばないまま高校・大学を卒業している人は今年29歳である。もし、その人が小学校の先生になっているとすると、就職してから7年という月日が経っていることになる。つまり、日本史を知らないで6年生に歴史を教えている状況が最大7年間という状況が想定されうるのが、日本の歴史教育の現状である。

これは、韓日関係史を知る、知らないというレ

ベルの問題ではない。極論すれば、日本史すら、今の小学校教師は知らないのである。彼らには、日本史は教えられない、ましてや韓日関係史など不可能である。

その先生に教わった第一世代は、今、大学4年生である。

私は、今年の大学1年生に、授業で毎回、日本史の小テストをしている。小テストは、中学受験をする小学生が解くレベルの問題である。しかし、その平均点は、10点満点で5点以下である。

こうした「大学生」の存在を外国の人たちは理解できるであろうか？

学校に行けなくて、教育を受けていなくて、自分の歴史を知らない、という人はいるであろう。しかし、きちんと小学校からの教育を受けていて、しかも大学にまで入学している「高等教育を受けた学生」が、自国史を知らないのである。

なぜ、このようなことがおきてしまうのであろうか。

昔は、小学校すら行ってない日本人でも常識として知っていた自国の歴史を知らない大学生の存在をどうするかという大きな問題が、日本の歴史教育の問題である。彼らが自国史を知らない理由、自国史の存在価値を認めない社会に生きているからであろう。それがある意味、今日的な「グローバル化」なのかもしれない。そして「国際化社会」なのかもしれない。

「グローバル化」も「国際化社会」も、実は日本の経済の目標であり、結果である。

それは、日本人からアイデンティティを奪う教育をシステム的に行ってきた結果なのである。

教科書問題で、日本は中国や韓国などアジア諸国から批判されている。

中国や韓国、アジア諸国が批判している対象は誰なのか。

日本の文部科学省なのか？

それとも「日本」という国なのか？

それとも「日本人」全員なのか？

日本人である私からみても日本の文部科学省の

現在の選択はおかしい部分がある。日本の中でも、もう長い間、文部科学省の教科書検定に対して、批判を続けている人たちがいる。ここにも別の問題が横たわっている。これは研究者と国家という両者の問題である。もちろん、国家が教育に関わるということは、国民の歴史教育に直接の影響があり、これを無視することはできないが、今回のテーマとは少しずれるので、これについてはこれ以上触れない。

今確認できることは、少なくとも、今も日本の学生たちに近代以後の戦争責任について、きちんと考えるだけの基礎的歴史知識はないということである。この場合の基礎知識というのは、近代戦争についての知識ではない。日本という国がたどってきた歴史全体に対する基礎知識のことである。

一つの歴史事象を、その時代についての知識だけで判断するのは、とても危険である。

大きな流れの中で、その国がたどってきた歴史を知った上で、ある時代の歴史事象を理解する必要がある。

教育する側についても同じことが言える。一つの歴史事象について、一方的な情報を与え続けることは、教育ではない。それは、一種の洗脳である。

「教える」という中で、「教え」だけを行うことは危険である。「育む」ということが必要である。「育む」とはなにか。それは「教え」に対して、自分の頭で考えるということに許すことではないであろうか。

私が、大学生から「日本史の勉強の仕方を教えて下さい」と言われた時、かならず次の方法を勧める。

「学習漫画を読みなさい。漫画日本の歴史を読むのが一番の早道です」と。

教科書問題を今の子どもたちに理解させるのは難しいが、韓国の歴史の漫画ができると、おそらく学校で習わなくても、韓国史を知っている子どもはあつという間に増えるであろう。日本の子どもが、韓国の歴史に感情移入でき、韓国の子ども

が日本の歴史に感情移入できるようになったとき、新しい歴史認識が生まれ、友好的な未来が生まれる可能性は高くなる。

こうした考えは、かなり感情的な部分があり、論理的ではない箇所もある。しかし、論理だけの歴史がかつて存在したことがあるかと考えると、その是非がわかるのではないか。たとえば、論理だけであれば、戦争は起こらないはずである。戦争には必ず敗者がいる。論理的に考えると、敗者が存在することに突入する国があるのは非論理的だからである。

両方の国が、自分の国が勝つと考えたとき、どちらかの論理に間違いが生じている。両方が勝つことはありえないからだ。

戦後、韓国は国際社会において、日本に対してとても有利な立場にある。論理的に考えると、この有利な立場を放棄するのは馬鹿らしいことである。ところが、実際には、現代の両国の若者たちは、交流しあっている。国際結婚も成立している。芸能・文化も共通性を持ち始めている。

こうした、論理を超えた、うれしい交流も存在している。つまり、歴史というか現実社会は、論理だけでは動いていないということである。我々は、そうした感情的な有効性をもっと利用すべきではないであろうか。

誤解を恐れずに言うと、教科書の表現を指摘し合うことは、あまり生産的ではない。

もちろん研究として、よりよい教科書を作るための共同研究は必要なことである。しかし、外交的・政治的にそれを行うことは、真実の交流の妨げにこそなれ、有効な手段にはなりがたいように思える。

とはいえ、現在の状況に自然になったわけではなく、戦後の両国のせめぎ合いの中で理解が深まり、現在に至ったという歴史も重要である。

そして、両国が歴史教育の在り方を考え直す、新たな段階に来ていると考えたい。

最後に、アンケートで「歴史教科書問題などにつ

いて自由に意見をお書きください」という問いかけに対する、大学生の解答のうちからいくつかを書き出してみたい。

- ① 教科書というのはアメリカでも日本でも自分達に都合のよい解釈がされています。本当に歴史を知るためには、教科書でなく、いろいろな本を読んで理解を深めていきたいです。(18歳, 男子, 東京)
- ② 韓国や中国が日本の歴史教科書に反論する理由はわかる。しかし、日本ではしっかりとした真実を伝えなければいけないと思うので、意見を聴く必要はないと思う。(18歳, 男子, 埼玉)
- ③ 日本の歴史教科書に書かれている内容はほぼ日本側からの視点であると思います。それでも「韓国の人が悪い」であるなどの内容は書かれていません。「歴史」は過去の話であるのだから、子どもたちが教科書を読んで繰り返してはならないと考えるような教育をするべきではないかと私は思います。(18歳, 男子, 埼玉)
- ④ 現在、日本サイドの戦争中の問題(虐殺など)が中国などからやたらと過大に見られているのはおかしい。確かに、虐殺などはあったと思うが、殺害された人数をかき増して日本を陥れようとしているのが、中国などの思惑として見え隠れするのが腹立たしい。そんな要望や抗議は無視して、教科書をつくり続けても良いのではないかとと思う。(18歳, 男子, 埼玉)
- ⑤ とてもデリケートな問題だと思う。全ての歴史に関して言えることだが、教科書を作っている人は、その歴史の場面に遭遇していないので、本当の真実を書くことはできない。推理によってできた歴史を書くのだから、当然、言葉のアヤが生じる。全ての人が平等に感じる歴史の教科書を書くのは難しいはずだ。(18歳, 男子, 千葉)

- ⑥ これからは国際化がより進んでいく時代なので、これまで日本が他国に行ってきたこと、行われてきたことについて、教科書の中により明確に書かれていく必要があると思う。(18歳, 男子, 千葉)
- ⑦ 忘れてはいけないことはたくさんあると思います。しかし、それが弊害となって仲が悪くなっているのも事実です。一方的な主張を繰り返すのではなく、互いに敬って行動すべきだと思います。(18歳, 男子, 神奈川)
- ⑧ 日本は日本である。他国の言いなりで教科書が変わるのはおかしいことである。しかし、「侵略」を「進出」に書き換え、あたかも日本軍の行いを正当化したと思われる内容に文句を言われるのは当然である。アンケートでは(2)「不当な介入」を選んだが、内政にけちをつける韓国・中国と、日本軍を正当化する日本のどちらが正しいかは分からない。ただ、子どものためにも、正確な歴史を教えることが望ましい。(18歳, 男子, 茨城)
- ⑨ 客観的に描かなくてはいけないが、どうしても日本の主観が入ってしまっていると思う。(18歳, 女子, 埼玉)
- ⑩ 海外(特に中国と韓国)における反日的な教育が嫌いである。また中国のような金もうけ主義のような一面や格差社会、情報や報道を規制するようなやり方は卑劣で大嫌いだ。(19歳, 男子, 埼玉)
- ⑪ 歴史教科書が日本に良いように書かれているといわれているが、他の国も同じなのではないかと思えます。他の国の歴史教科書を読んだことがないので、何ともいえませんが…。(19歳, 男子, 埼玉)
- ⑫ それぞれの国にそれぞれの主張が存在するので、全てをとり入れることはできないと思いますが、話し合った上で決定することはできると思えます。(19歳, 男子, 千葉)
- ⑬ 日本の教科書なのだから、自由にさせてくれれば良いのと思うが、被害を受けた側からの歴史も学ばなくてはならないと思う。しかし、そういった歴史的な事柄について謝罪しろというのは、おかしいと思う。当事者同士が謝罪するなり、罰するなりするのなら分かるが、今の政治家が謝るのはちがうと思う。(19歳, 男子, 千葉)
- ⑭ 歴史教科書は事実が載っているべきであると思う。(19歳, 女子, 埼玉)
- ⑮ 日本は実際に中国・韓国に対して、ひどいことをしていたのだから、正当な要求なのかもしれないけれど、それに対して、今、教科書をあそこまで批判するのはどうなのだろうかとも思う。(19歳, 女子, 埼玉)
- ⑯ 過去のことを今私たちが言われても、どれが真実なのか分からないし、どのように反応していいかわからない。しかし、あいまいなままにしていけないと思う。それぞれの視点があるのだから、少し差異は起こりうるかなとも思う。(19歳, 女子, 山形)
- ⑰ 立場、観点を統一することは不可能だと思う。(20歳, 男子, 埼玉)
- ⑱ 確かに日本の教科書は自分たちのしたことを書かなすぎている。しかし中・韓の人々も熱くなりすぎて論点がスレかねない気もする。いずれにせよ、日本の子どもたちはもっと戦時中の日本人の行動について知った方がよいと思う。(20歳, 女子, 長野)
- ⑲ 教科書は子どもの教育を行う上で重要なものなので互いの意地でどうすればよいか決めるのではなく、今後、教育を行っていく上でどうすれば一番子どものためになるか考えて決めてほしい。(22歳, 男子, 東京)
- ⑳ 中国や韓国側の第二次世界大戦の教科書の記述も読んでみたいと思うし、ニュースなどでもテーマとして扱ってくれると日本と中国・韓国で相互に意見交換ができ、より客観的な歴史の教科書ができると思う。教科書に書かれていることが、その人間の歴史観を決めるのではなく、ニュースを見たり、本を読んだ

りする経験をすることで、その人間の歴史の認識が決まるものなので、教科書がすべてと考えることは間違っていると思う。(24歳, 男子, 群馬)

追記：これは、平成21年8月7日に明治大学紫紺館において開催された「韓日歴史教育特別国際シンポジウム」において発表したものを原稿化したものである。

日韓歴史教育に関するアンケート

性別 1 男 2 女 年齢 歳 出身

日本と韓国について以下の質問に対して、該当するものに○をつけてください。

高句麗	1	知っている	2	知らない	3	聞いたことはある
新羅	1	知っている	2	知らない	3	聞いたことはある
百濟	1	知っている	2	知らない	3	聞いたことはある
世宗大王	1	知っている	2	知らない	3	聞いたことはある
李成桂	1	知っている	2	知らない	3	聞いたことはある
李舜臣	1	知っている	2	知らない	3	聞いたことはある
閔妃暗殺	1	知っている	2	知らない	3	聞いたことはある
安重根	1	知っている	2	知らない	3	聞いたことはある
創氏改名	1	知っている	2	知らない	3	聞いたことはある
李承晩	1	知っている	2	知らない	3	聞いたことはある
朴正熙	1	知っている	2	知らない	3	聞いたことはある
日韓条約	1	知っている	2	知らない	3	聞いたことはある
従軍慰安婦	1	知っている	2	知らない	3	聞いたことはある

韓国や中国の日本の歴史教科書に関する意見についてどう思いますか？

- 1 正当な要求 2 不当な介入 3 わからない

1910年の日韓併合についてどう思いますか？

- 1 どうも思わない 2 許すべきではない 3 わからない

第二次世界大戦中、日本が朝鮮の人々を強制的に労働させたことについてどう思いますか？

- 1 しかたなかった 2 許すべきではない 3 わからない

歴史教科書問題などについて自由に意見をお書きください。

韓国認知度アンケート

	年	性	出身地	高句麗	新羅	百濟	世宗	李成桂	李舜臣	閔姫暗殺	安重根	創氏改名	李承晩	朴正熙	日韓条約	従軍慰安婦	教科書批判	日韓併合	強制労働
1	18	男	東京都	1	1	1	2	1	2	1	1	2	1	3	1	1	1	3	1
2	18	男	東京都	1	1	1	2	1	1	1	1	1	3	3	1	1	2	1	2
3	18	男	東京都	1	1	1	2	1	1	2	2	2	2	2	1	2	3	2	2
4	18	男	埼玉県	1	1	1	2	2	1	1	1	2	2	3	1	1	2	1	1
5	18	男	埼玉県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2
6	18	男	埼玉県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
7	18	男	埼玉県	1	1	1	2	3	3	3	1	1	2	2	1	1	2	2	2
8	18	男	埼玉県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	3	1	1	2	1	2
9	18	男	埼玉県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	2	3	1	3	1	2
10	18	男	埼玉県	1	1	1	2	1	3	3	1	2	2	2	1	1	3	2	2
11	18	男	埼玉県	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
12	18	男	千葉県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	3	1	1	3	2	2
13	18	男	千葉県	1	3	3	2	3	1	1	1	1	3	3	3	1	3	2	3
14	18	男	千葉県	1	1	1	2	2	3	3	3	2	2	2	3	2	1	3	2
15	18	男	千葉県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	3	2	2	1	2	2	2
16	18	男	神奈川	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1	3	3	2	1
17	18	男	神奈川	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3
18	18	男	神奈川	1	1	1	2	2	2	2	1	2	2	2	1	1	2	3	3
19	18	男	茨城県	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2
20	18	男	茨城県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	2	2
21	18	男	茨城県	1	1	1	3	1	1	3	3	1	3	3	2	3	2	1	3
22	18	男	栃木県	1	1	1	2	1	2	2	1	2	1	2	1	2	2	3	1
23	18	男	群馬県	1	1	1	2	3	3	2	1	1	2	2	1	1	2	2	2
24	18	男	長野県	1	1	1	2	2	1	2	1	3	2	2	1	2	3	3	2
25	18	男	福島県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	1	1	2	1	1	2
26	18	男	新潟県	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	1	2	2
27	18	男	沖縄県	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	3	3	2
28	18	女	東京都	1	1	1	2	2	2	2	2	3	2	3	3	1	2	3	2
29	18	女	埼玉県	1	1	1	2	3	1	1	1	3	2	3	1	1	3	2	2
30	18	女	埼玉県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	1	1	1	3	2	2
31	18	女	群馬県	1	1	1	2	2	2	2	3	2	2	3	3	3	3	1	3
32	18	女	山梨県	1	1	1	2	1	3	2	3	1	3	2	2	1	1	2	2
33	18	女	不明	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	3	3	2
34	19	男	東京都	1	1	1	2	1	1	1	1	1	3	3	1	1	1	1	1
35	19	男	東京都	1	1	1	2	3	1	3	1	1	2	3	3	1	3	3	2
36	19	男	東京都	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	2	2	1	1	3	2
37	19	男	埼玉県	1	1	1	2	2	3	2	1	1	2	2	1	1	2	1	1
38	19	男	埼玉県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	3	2
39	19	男	埼玉県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	2
40	19	男	埼玉県	1	1	1	3	1	1	1	1	1	3	3	1	3	1	1	1
41	19	男	埼玉県	1	1	1	3	1	1	3	1	3	1	2	3	1	2	3	3
42	19	男	千葉県	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	3	2	3	1
43	19	男	千葉県	1	1	1	2	3	2	2	1	2	2	3	1	2	1	1	2
44	19	男	千葉県	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2
45	19	男	千葉県	1	1	1	2	2	2	1	1	2	2	3	1	1	2	2	2
46	19	男	千葉県	1	1	1	1	1	1	2	1	1	2	2	1	1	1	2	2
47	19	男	神奈川	3	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	1	2	2
48	19	男	神奈川	1	1	1	2	1	1	1	1	1	3	3	1	1	3	1	1

韓日歴史教育への一私論

49	19	男	神奈川県	1	1	1	2	1	1	3	1	1	2	3	3	2	1	2	2
50	19	男	茨城県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	3	2	1	1	1	3	1
51	19	男	福島県	1	1	1	2	2	2	2	3	2	2	2	1	2	3	3	3
52	19	男	新潟県	1	1	1	2	1	1	1	1	2	2	3	1	3	1	1	1
53	19	男	新潟県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	2	2
54	19	男	新潟県	3	3	3	2	3	3	2	3	2	2	2	3	2	3	3	3
55	19	男	宮崎県	1	1	2	2	1	1	2	2	2	2	2	1	2	1	3	2
56	19	女	東京都	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	3	2
57	19	女	埼玉県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	2	1	1
58	19	女	埼玉県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	3	3	1	1	3	3	2
59	19	女	埼玉県	1	1	1	2	3	2	2	2	3	2	2	3	2	2	3	2
60	19	女	埼玉県	1	1	1	2	1	2	1	1	2	2	3	3	2	3	3	3
61	19	女	千葉県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	3	2	1	1	2	2	2
62	19	女	千葉県	1	1	1	2	3	1	2	1	2	3	3	1	2	2	3	1
63	19	女	神奈川県	1	1	1	2	2	3	3	3	3	2	3	3	2	3	1	3
64	19	女	茨城県	1	1	1	2	1	1	1	3	2	2	3	1	2	1	1	1
65	19	女	山形県	1	1	1	3	1	1	2	3	1	2	2	1	1	3	3	2
66	20	男	東京都	3	3	3	2	2	2	3	3	3	2	2	1	1	1	1	1
67	20	男	東京都	1	1	1	2	1	1	1	1	1	3	1	1	1	3	3	1
68	20	男	東京都	1	1	1	2	1	1	1	1	1	3	3	1	2	2	1	2
69	20	男	埼玉県	1	1	1	2	2	2	2	1	1	2	2	3	1	1	2	2
70	20	男	埼玉県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	3	3	1	1	1	2	2
71	20	男	埼玉県	3	3	3	2	3	3	3	1	2	2	2	3	2	1	1	3
72	20	男	埼玉県	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	2
73	20	男	千葉県	1	1	1	2	2	3	3	1	1	2	3	1	1	1	2	3
74	20	男	千葉県	1	1	1	2	1	1	3	1	2	2	2	1	1	1	3	1
75	20	男	神奈川県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
76	20	男	神奈川県	1	1	1	3	1	1	3	1	1	1	1	1	1	2	2	2
77	20	男	神奈川県	1	1	1	3	3	3	3	3	1	3	3	3	2	3	1	1
78	20	男	茨城県	1	1	1	2	1	1	3	2	3	3	2	3	3	1	2	2
79	20	男	茨城県	1	1	1	2	1	1	3	1	1	2	3	3	2	3	1	1
80	20	女	千葉県	1	1	1	2	1	1	1	1	3	1	3	1	1	2	2	2
81	20	女	栃木県	1	1	3	3	1	1	2	2	2	1	2	3	2	3	3	2
82	20	女	長野県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	2	2
83	21	男	東京都	1	1	1	2	3	3	3	3	2	2	2	1	3	1	2	1
84	21	男	東京都	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	2
85	21	男	埼玉県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1
86	21	男	千葉県	1	1	1	2	2	3	2	2	3	2	2	1	3	1	3	2
87	21	女	東京都	1	1	1	2	1	1	1	1	2	2	1	1	3	2	3	3
88	22	男	東京都	1	1	1	1	1	1	3	3	3	1	3	1	3	2	2	2
89	22	男	東京都	3	3	3	2	1	1	3	1	1	2	2	3	3	1	2	2
90	22	女	埼玉県	1	1	1	2	1	3	1	2	1	2	1	1	2	1	2	2
91	22	女	福島県	1	1	1	2	1	2	2	2	1	2	3	3	2	1	3	2
92	23	男	東京都	1	1	1	2	3	3	1	1	1	2	2	1	1	2	1	1
93	23	男	埼玉県	1	1	1	2	2	2	2	1	1	2	3	1	1	3	2	2
94	23	女	福島県	1	1	1	2	3	3	1	3	3	2	2	3	3	1	3	2
95	24	男	群馬県	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
96	25	男	東京都	3	3	3	2	3	3	3	3	3	2	3	3	2	3	3	1
			認知度	91.6	91.6	89.5	6.2	61.4	60.4	48.9	67.7	55.2	19.7	19.7	65.6	56.2			
			支持率														42.7	38.5	60.4

	設問文	人名
1	南アフリカ共和国で発見された400万年前の人類最古の猿人	アウストラロピテクス
2	学名ピテクアントロプス・エレクトス。直立歩行と打製石器が特徴	ジャワ原人
3	学名シナントロプス・ベキネンシス。道具や火の使用が特徴。	北京原人
4	20万年前の旧人で、毛皮や宗教的習慣が特徴	ネアンデルタール人
5	人類の直接の先祖で5～3万年前に生息。フランスで発見された。	クロマニヨン人
6	日本最古の人類として1931年に更新世の地層から発見された。	明石人
7	群馬県の岩宿遺跡を発見した人	相沢忠洋
8	1877年に東京の大森貝塚を発見したアメリカ人	モース
9	魏から親魏倭王の称号をもらった邪馬台国の女王	卑弥呼
10	4世紀後半に百済や倭と戦った高句麗の王様	好太王
11	6世紀中頃、大和の欽明大王に仏像を贈った百済の王様	聖明王
12	7世紀初めに高句麗遠征を繰り返した隋の皇帝	煬帝
13	8世紀前半に開元の治で文化を発展させた唐の皇帝	玄宗
14	630年に派遣された日本で最初の遣唐使	犬上御田歊
15	645年の大化改新や天智朝の政策に協力した人物	中臣鎌足
16	中国から帰国し、大化改新で僧曇とともに国博士に任じられた人物	高向玄理
17	持統天皇の孫で、大宝律令を制定した天皇	文武天皇
18	光明皇后の父で、大宝律令の編纂に関わり養老律令を制定した人物	藤原不比等
19	中国から戒律を伝えるために盲目になっても来朝した僧侶	鑑真
20	租庸調の税金や雑徭など労役に苦しむ農民を貧窮問答歌に詠んだ人物	山上憶良
21	吉備真備や玄昉を用いて藤原四兄弟に対抗した政治家	橘諸兄
22	称徳天皇が僧道鏡を天皇位につけようとしたのを阻んだ人物	和気清麻呂
23	人々に仏教を説き、橋や用水路を布施屋を作って救済した僧	行基
24	桓武天皇に蝦夷討伐を命じられた日本最初の征夷大將軍	坂上田村麻呂
25	嵯峨天皇の信頼を得て、最初の蔵人頭に任じられた政治家	藤原冬嗣
26	清和天皇の時に、臣下で初めて摂政となった政治家	藤原良房
27	宇多天皇の時に、最初の関白に任じられた政治家	藤原基経
28	悪政のために尾張国の郡司や百姓たちに訴えられた政治家	藤原元命
29	醍醐天皇の時、最初の勅撰和歌集「古今和歌集」を編纂した人物	紀貫之
30	10世紀頃、京都の街中で念仏を唱えることを人々に説いた僧侶	空也
31	「往生要集」を著して浄土信仰を体系化した僧侶	源信
32	平安時代の仏師で平等院鳳凰堂の阿弥陀如来像を作った人物	定朝
33	935年に関東で新皇宣言をして氾濫を起こした武士	平将門
34	939年瀬戸内海に海賊を率いて乱を起こし、大宰府に侵入した国司	藤原純友
35	後三年の役で清原氏の内乱をおさめた陸奥守	源義家
36	鎌倉幕府二代目執権で承久の乱の標的にされた武士	北条義時
37	初代六波羅探題となり御成敗式目を制定した武士	北条泰時
38	踊念仏によって時宗を民衆に広めた僧侶	一遍
39	親鸞の悪人正機説を「歎異抄」に著した僧侶	唯円
40	13世紀に武蔵国に金沢文庫を作って書物を収集した武士	北条実時
41	東大寺南大門の金剛力士像を作った仏師	運慶
42	法華宗を開いて「立正安国論」を著した鎌倉時代の僧侶	日蓮
43	文永・弘安の役という二度の元寇を退けた執権	北条時宗
44	田楽や闘犬に遊びふけた最後の執権	北条高時
45	後醍醐天皇を助けるために立ち上がった河内の悪党	楠木正成
46	南朝に味方して「神皇正統記」を著した武将	北畠親房
47	足利三代将軍で南北朝を合一し、北山文化を展開した人物	足利義満
48	嘉吉の乱で足利義教を暗殺した守護大名	赤松満祐
49	足利義政の奥さんで、各地に閨所を設け税金を取り立てた女性	日野富子
50	応仁の乱で山名持豊と対立し、足利義視を支持した管領	細川勝元

51	鎌倉公方足利持氏を補佐し、足利学校を再興した関東管領	上杉憲実
52	戦国時代の幕開けに堀越公方を滅ぼし伊豆・相模を平定した武将	北条早雲
53	商人出身で土岐氏を滅ぼして美濃に覇権を唱えた武将	斎藤道三
54	父親阿弥とともに能楽を大成し「花伝書」を著した芸術家	世阿弥
55	室町時代後期に中国より本格的な水墨画を伝えた画家	雪舟
56	各地の大名から支持されて連歌を普及させ、「新撰菟玖波集」を著した	飯尾宗祇
57	村田珠光のあとをうけて「わび茶」を大成させた堺の町衆	千利休
58	キリスト教を布教のため鹿児島に来、2年間日本に滞在したイエズス会師	フランシスコ・ザビエル
59	最初朝倉氏を頼り、後に織田信長により最後の室町将軍となった人物	足利義昭
60	豊臣秀吉の朝鮮出兵に対して水軍を指揮して活躍した朝鮮の英雄	李舜臣
61	安土桃山期に金箔を使った障壁画で著名となった画家	狩野永徳
62	最初狩野派を学ぶが、後に水墨画を学び襖絵や肖像画に独自性を見せた	長谷川等伯
63	藩主伊達政宗の命によりスペインに派遣された家臣	支倉常長
64	京都で高瀬川を開削し、商業の発展に努めた豪商	角倉了以
65	海外に進出しシャム国王に重用され日本人町の頭領になった人物	山田長政
66	リーフデ号の船員で徳川家康の外交顧問となったイギリス人	ウィリアム・アダムス
67	幕府のキリシタン禁止令に対抗し島原で反乱を起こした若者	天草四郎時貞
68	家康から上野忍が岡の地を与えられ湯島聖堂を造った儒学者	林羅山
69	5代將軍綱吉に重用され、側用人政治を展開した武士	柳沢吉保
70	6代將軍家綱に重用され、正徳の治を展開した儒学者	新井白石
71	8代將軍吉宗の時にさつまいもの栽培を奨励して凶作に備えた学者	青木昆陽
72	江戸時代初期に農業技術を発展させるため「農学全書」を著した学者	宮崎安貞
73	東北や北陸から江戸に物資を運ぶ東廻り航路を開いた人物	河村瑞賢
74	元禄期に人間社会をありのままに浮世草子に描いた大坂の町人	井原西鶴
75	元禄期に諸国を旅して「奥の細道」を表し俳諧を高めた人物	松尾芭蕉
76	人形浄瑠璃で義理と人情に苦しむ人間の姿を描き出した脚本家	近松門左衛門
77	大和絵を復興して「風神雷神図」など独特の装飾画を始めた京町衆	俵屋宗達
78	10代將軍家治の側用人となり積極的な商業政策を展開した武士	田沼意次
79	11代將軍家斉の時、老中となって寛政の改革を推し進めた武士	松平定信
80	民間教育は寺子屋で行われたが京都で町人を相手に心学を教えた人物	石田梅岩
81	賀茂真淵の弟子で「古事記伝」を著し、ものあわれを説いた国学者	本居宣長
82	蘭学のきっかけとなった「解体新書」を前野良沢らと翻訳した医師	杉田玄白
83	西洋の測量術を学んで正確な「大日本沿海輿地全図」を作った人物	伊能忠敬
84	オランダ商館の医師で長崎に鳴滝塾を開き高野長英達を教育した人物	シーボルト
85	歴史や伝説を材にした読本で活躍し「南総里見八犬伝」を著した人物	滝沢馬琴
86	庶民生活を面白く書いた滑稽本で「東海道中膝栗毛」を著した人物	十返舎一九
87	多色刷りの版画の技法を完成させ錦絵を発展させた画家	鈴木春信
88	美人がの喜多川歌麿とは異なる独特の役者絵を大胆に描いた画家	東洲斎写楽
89	江戸後期の洋画家で平賀源内に学んで日本最初の銅版画を描いた	司馬江漢
90	幕府の指令で樺太を探索して海峡を発見し樺太が島であることを発見	間宮林蔵
91	12代將軍家慶の信任を得て老中となり天保の改革を行った	水野忠邦
92	元大坂町奉行所与力で陽貧民のために反乱を企てた陽明学者	大塩平八郎
93	ペリーが結んだ日米和親条約に基づいて下田に着任したアメリカ総領事	ハリス
94	1858年彦根藩主から大老となり日米修好通商条約を締結した人物	井伊直弼
95	桜田門外の変のあと公武合体政策を進め幕府の権威回復に努めた老中	安藤信正
96	佐久間象山に学び長州で松下村塾を開き尊皇攘夷を説いた藩士	吉田松陰
97	水戸の徳川斉昭の息子で15代將軍となり大政奉還を行った人物	徳川慶喜
98	薩摩の大久保利通と倒幕計画を練り維新後は欧米使節団を派遣した公家	岩倉具視
99	海軍伝習所で学び、函館の五稜郭で新政府軍と戦った幕臣	榎本武揚
100	薩摩出身でイギリスに留学し、最初の文部大臣となり学校令を發布した	森有礼